

2016年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	新免 康		
NAME	SHINMEN Yasushi		

1. 研究課題

（和文）ウイグル族の口承文芸と歴史的記憶に関する基礎的研究

（英文）Basic study on the Uyghur oral literature and historical memory

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

中国の新疆ウイグル地域の主要な民族であるウイグル族の社会においては、独自のテュルク系言語による文字文化が、文学や歴史叙述の分野を軸としつつ展開してきた。それらは民族文化の根幹をなすと言っても過言ではなく、研究者の強い関心を惹いてきた。

これに対し、その口承文芸は、コシャックと呼称される韻文形式のものを中心に、民間歌曲を含め、現在にいたるまで各オアシス地域において民衆の生活文化と密着する形でその生命力を示してきたが、先行研究は乏しい。それらは部分的に民衆レベルにおけるウイグル族社会が生きてきた歴史的な経験を反映している。また、近代に民族文化の再発見とその顕彰という動向の中で口承文芸も注目の対象となり、なんらかの影響を与えた形跡もある。従って、当該地域の歴史状況を検討する上で、また、近代における民族文化のあり方に光を当てる上でも看過できない存在である。

そこで本研究課題においては、文字化されたコシャックとそれをもとにした民間歌曲の資料を収集し、とくにイリ地域の民間歌曲を検討することを通して、そこに見出される歴史的記憶について、実際の歴史的状況との比較の視点から検討を加えた。実施に当たっては、中国で刊行された文献・音声資料等を可能な限り収集するとともに、ウズベキスタンで関連資料の収集と移住ウイグル族からの聞き取り調査を実施した。その結果、口承文芸に民衆のメンタリティに根ざした具体的な経験が如実に反映されてきたこと、また、その歴史的記憶が近現代において、民族意識の形成・浸透などの事象において重要な意味をもっていたことが明らかになった。

（英文）

In the Uyghur society in Xinjiang, China, the culture based on its own Turkic language has developed around the field of literature and historical description. Among them, oral literature, including folk songs, has shown its vitality in the living culture of the people. In this research project, we collected data on the Uyghur *Qoshaq* as well as the folk songs and examined the historical memory in them to throw light on their significance in the modern period.